

## 国際会議等の開催状況

- (1) 2003年11月22日・近畿大学11月ホール  
平成15年度第1回21世紀COEプログラム 2年連続選定記念シンポジウム  
参加者1800人  
主な招待講演者：野依良治（理化学研究所理事長）・熊井英水（近大水産研究所所長）・  
細井美彦（近大生物理工学部教授）
  
- (2) 2003年12月4日・マレーシア国立サバ大学  
平成15年度第2回21世紀COEプログラム  
国際シンポジウム「魚類養殖における研究の現状と今後の発展」  
参加者 250人（外国人：240人）  
主な招待講演者：S. Mustafa（サバ大学助教授）・宮下 盛（近大水産研究所教授）・  
太田博巳（近大農学部教授）
  
- (3) 2003年12月11日・新阪急ホテル（大阪）  
平成15年度第3回21世紀COEプログラム  
シンポジウム「これからの魚類養殖と流通・安全性」  
参加者 200人（外国人：4人）  
主な招待講演者：村田 修（近大水産研究所教授）・小野征一郎（近大農学部教授）・  
安藤正史（近大農学部助教授）
  
- (4) 2004年2月24日・韓国麗水大学校  
平成15年度第4回21世紀COEプログラム 韓・日国際シンポジウム  
参加者 120人（外国人：105人）  
主な招待講演者：鄭寛植（麗水大教授）・全淋基（国立水産科學院）・高京民（済州道  
海洋水産資源研究所）
  
- (5) 2004年3月15－18日・マレーシア国立サバ大学  
平成15年度国際セミナー” Seminar on Research and development in fisheries and  
marine science,2004 in UMS”  
参加者 56人（外国人：49人）  
主な招待講演者：Rhaman（サバ大学教授）・Cabanban（サバ大学助教授）・江口 充（近  
大農学部教授）

(6) 2004年6月3日・近畿大学農学部

平成16年度第1回21世紀COEプログラム

国際シンポジウム「魚類養殖をとりまく最新の情報－マレーシア・バングラデッシュ・韓国・日本－」

参加者 160人（外国人：8人）

主な招待講演者：R. A. Rhaman（サバ大学ボルネオ海洋研究所所長）・瀬尾重治（サバ大学ボルネオ海洋研究所助教授）・A. K. Biswas（近大水産研究所COE博士研究員）

(7) 2004年7月15日・近畿大学農学部

平成16年度第2回21世紀COEプログラム シンポジウム「クロマグロ研究の最前線」

参加者 210人（外国人：3人）

主な招待講演者：坂本 亘（近大 水産研究所教授）・家戸敬太郎（近大水産研究所講師）・石橋泰典（近大農学部助教授）

(8) 2004年10月23日・近畿大学農学部

平成16年度第3回21世紀COEプログラム

シンポジウム「養殖マグロ－日本・オーストラリア－」

参加者 40名

主な招待講演者：濱田英嗣（下関市大 教授）・日高 健（近大農学部助教授）・前潟光弘（近大農学部講師）

(9) 2004年11月10－11日・近畿大学11月ホール

平成16年度第4回21世紀COEプログラム

国際シンポジウム” STOCK ENHANCEMENT AND AQUACULTURE TECHNOLOGY”

参加者 100人（外国人：20人）

主な招待講演者：Wei-Cheng Su（台湾）、Jacques Sacchi（仏）、Mathias Paschen（独）

(10) 2004年11月20日・ホテル三楽荘（和歌山県白浜）

平成16年度第5回21世紀COEプログラム

シンポジウム「魚類養殖産業支援基盤研究の探訪」

参加者 120人（外国人：2人）

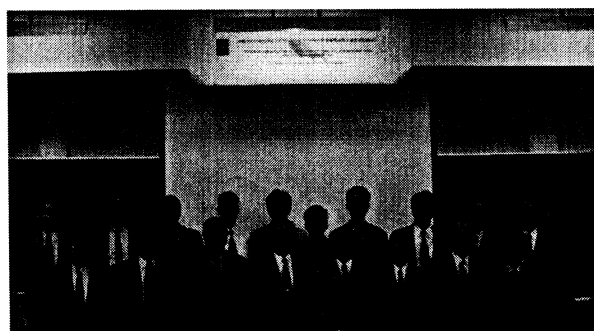
主な招待講演者：八木基明（長崎市水産部次長）・坂本 亘（近大水産研究所教授）・小野征一郎（近大農学部教授）

その他に外国人講師による21世紀COEプログラム大学院特別講義を1回、学内COEセミナーを27回、COEグループセミナーを1回開催した。

## シンポジウムの開催内容

### 第1回「魚類養殖をとりまく最新の情報—マレーシア・バングラデッシュ・韓国・日本—」

2004年6月3日近畿大学農学部202教室において標記のシンポジウムが開催され、大学研究者、企業関係者、学生、教職員など162名にのぼる多数の参加者を得ました。熊井英水 COE 拠点リーダーの挨拶にはじまり、マレーシア連邦国立サバ大学ボルネオ海洋研究所長 R.A. Rahman 教授が "Marine Biodiversity Research in Universiti Malaysia Sabah" と題する基調講演を、また、同海洋研究所 瀬尾重治助教授、水産研究所 A.K. Biswas COE 博士研究員、池 承哲 COE 博士研究員、および農学研究科 中原尚知 COE 博士研究員により、マレーシア、バングラデッシュ、韓国および日本における最新の魚類養殖事情と社会背景についての講演が行われました。Rahman 教授の基調講演は熱帯海域や海洋生物の鮮明な映像によって、資源保護に向けた早急な対策の必要性を参加者に強く印象づけるものでした。最後に、COE プログラムおよびサバ大学・近畿大学学術交流の益々の発展を期待するとの農学部研究課長 岡本 忠 教授の挨拶で、本シンポジウムを終了しました。(文責 滝井健二・塚正泰之)



### 第2回「クロマグロ研究の最前線」

2004年7月15日に近畿大学農学部202教室において、本 COE プログラムの種苗生産・養殖グループが企画したシンポジウム「クロマグロ研究の最前線」が開催され、大学研究者、企業関係者、学生、教職員など210名もの参加者を得ました。

まず、熊井英水 COE 拠点リーダーの挨拶の後、近畿大学水産研究所の宮下 盛教授が国内および海外におけるクロマグロ養殖の経緯と現状について講演しました。次に、水産研究所の家戸敬太郎講師がクロマグロの成熟と産卵について、同研究所の澤田好史助教授がクロマグロの初期発育と種苗生産について、農学研究科の石橋泰典助教授がクロマグロの環境ストレスと衝突死について、それぞれ最新の研究成果を盛り込んだ講演を行いました。最後に水産研究所の坂本 亘教授によってバイオテレメトリーの最新技術を活用したクロマグロの生簀内での行動に関する研究の紹介が行われました。

クロマグロの種苗生産・養殖に関する問題点とそれを解決するための様々な取り組みについての熱心な講演と質疑応答によって、参加者にはクロマグロの種苗生産・養殖研究の魅力が理解できたのではと思います。

### 第3回「養殖マグロ -日本・オーストラリア-」

平成16年10月23日に、近畿大学農学部において流通・経済グループ主催の第三回養殖マグロ・シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは当グループによる研究成果の中間報告会として企画されたものです。当日は、近畿大学の関係者、近畿圏の水産経済研究者、水産業界関係者合わせて約50人の出席を得て、最新の研究成果の報告と活発な議論が行われました。

シンポでは、研究代表者の熊井英水教授による開会の挨拶の後、まずグループ代表者の小野征一郎教授による趣旨説明と概要報告を皮切りに、中原尚知 COE 博士研究員による国内のマグロ養殖経営分析、山本尚俊 COE 博士研究員によるマグロの流通と市場構造、日高健助教授によるオーストラリアにおけるマグロ養殖業の国際競争力について研究報告がありました。これらの報告を通して、日本のマグロ市場が養殖マグロの登場によっ

て大きな地殻変動を起こしており、トロ市場では量販店や回転寿司と養殖マグロのつながりが重要な機軸となりつつあること、しかしオーストラリアを代表する大規模経営を特徴とする海外産地が優勢を誇っており、日本国内の養殖生産者は厳しい競争状況下におかれていること、またオーストラリアといえどもその競争力は脆弱であること、などが明らかにされました。

養殖マグロの登場によるマグロ市場の変化には目を見張るものがあります。しかし、マグロ養殖業が持続的に成り立ちうるのか、また国民の食生活に貢献することができるのか、まだ予断を許しません。流通・経済グループではこれらを良く見極め、マグロ養殖が産業として成立するための条件を探りたいと考えています。これからの成果にご期待ください。(文責：日高健)

#### 第4回「STOCK ENHANCEMENT AND AQUACULTURE TECHNOLOGY」

資源動態・環境保全グループが企画運営する国際シンポジウム"Stock Enhancement and Aquaculture Technology"が近畿大学11月ホールにおいて11月10日から11日まで開催されました。日本を含め8カ国から23名の研究者による発表があり、ポストドクトルフェローそして大学院学生もポスター発表を行いました。シンポジウムは：1, Tuna resource problem; 2, Environmental problem; 3, Engineering problem; 4, Final discussionの4セッション構成で、漁業インパクト、持続的生産、漁場環境、養殖施設、地中海マグロの行動追跡など多岐にわたる内容でした。

ここではポストドクトルフェロー(1, 2)と大学院学生(3, 4, 5)の研究発表課題を紹介します。

##### 1. HOLGER KORTE (Germany)

Inertia transformation in fishing net calculations.

##### 2. SHINSUKE TORISAWA (Japan)

The development of visual acuity in bluefin tuna.

##### 3. TAKASHI SHIMIZU (Japan)

Application of NaLA, a fishing net configuration and loading analysis system, tuna net-cage.

##### 4. YUMIKO TAMURA (Japan)

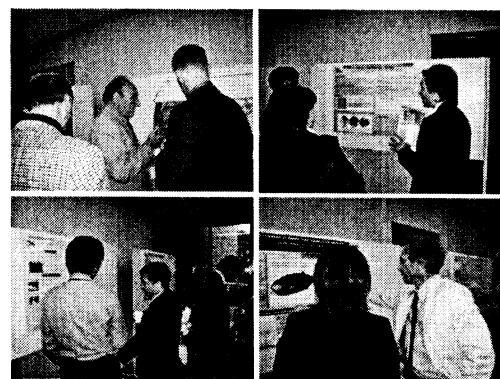
Fluid dynamics of bluefin tuna based on CFD analysis.

##### 5. SUSUMU OKANO (Japan)

An acceleration data-logger provides new information on swimming bluefin tuna in a net cage

シンポジウムは大学および学部関係各位のご協力のもと無事終了しました。関係各位のご支援に深く感謝します。現在 Proceedings を編集中です。

(文責：山根猛)



ポスターを前にシンポジウム参加者との討論風景

#### 第5回「魚類養殖産業支援基盤研究の探訪」

2004年11月20日に和歌山県白浜町「ホテル三楽荘」において種苗生産・養殖グループが企画した本COEプログラムのシンポジウム「魚類養殖産業支援基盤研究の探訪」が開催されました。COEメンバー、企業関係者、大学院生、近畿大学水産増殖学研究室OBなど多数の参加者を得ました。今回のテーマは魚類養殖産業を支援できる先端の研究として注目されている課題をピックアップし、トピックス的に紹介することに致しました。まず、熊井英水COE拠点リーダーの挨拶の後、近畿大学水産研究所の坂本 亘教授が水中生物行動情報と養殖について講演しました。次に、近畿大学大学院農学研究科の小野征一郎教授が養殖クロマグロの生産・流通・消費について、長崎市水

産部の八木基明次長(水産学博士)がハマチのB1欠乏と種苗生産におけるウイルス(VNN)対策について、それぞれ最新の情報および研究成果を多岐に亘って紹介して頂きました。これからの新養殖産業および研究活動の道しるべ的な話題が盛り沢山あり、聴講者に与えた関心は大きく、講演後の質疑においても活発な議論が交わされ、有意義なシンポジウムとなりました。

